

【訂正とお詫び】 FNETあきたNo.190の掲載内容について

11月21日付にて、FNETあきたNo.190「平成29年度鉄コーティング水稻直播栽培大規模実証圃の結果と栽培ポイントについて」を掲載いたしましたが、内容の一部に誤りがありました。

ご利用いただいている皆様に、ご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。訂正箇所については下記の通りです。また、ホームページ上には訂正版を反映させて頂いておりますので、ご確認をお願いいたします。

【訂正箇所】

1. 鉄コーティング水稻直播栽培大規模実証圃結果

● 耕種の概要について 【圃場条件：基盤整備後13年目・実証面積 (1ha)】

【誤】5月12日 (ベストパートナー 1kg/10a)

【正】5月12日 (ベストパートナー 0.5kg/10a)

【誤】5月1日 (※ルーチンFS 20ml/10a、キラップシードFS 40ml/10a)

【正】5月1日 (※ルーチンFS 20ml、キラップシードFS 40ml 各乾籾1kg当たり)

【誤】※新薬 (ルーチンFS、キラップシードFS 病害虫初期防除剤：鉄コー同時処理)

【正】※新薬 (ルーチンFS<いもち病>、キラップシードFS<イネミズゾウムシ>：鉄コー同時処理)

● 実証結果の考察について

【追加】※耕種概要等については実証結果であり、肥料・農薬の使用に当たっては使用基準を遵守すること。

以上、訂正しお詫び申し上げます。

**平成29年度鉄コーティング水稲直播栽培大規模実証圃の結果と栽培ポイントについて**

面積が拡大してきている省力・低コスト栽培法である鉄コーティング水稲直播栽培について、JA秋田おぼこ、JA秋田ふるさと管内の農事組合法人に協力をいただき、取り組んだ実証結果と栽培ポイント等について紹介します。

**1. 鉄コーティング水稲直播栽培大規模実証圃結果**

(例):JA秋田おぼこ管内

**● 耕種の概要について【圃場条件:基盤整備後13年目・実証面積 (1ha)】**

- ① 品種(あきたこまち) ② 播種量 (4kg/10a) ③ 播種方法 (点播) ④ コーティング比 (0.5)  
⑤ 耕種概要(基肥:エコペースト41kg/10a、代かき:5月9日、播種:5月12日)、  
除草剤散布:5月12日(ベストパートナー0.5kg/10a)、5月31日(アツパレZ1kg/10a)、栽植密度:(60株/坪)、  
病害虫防除:5月1日(※ルーチンFS20ml、キラップシードFS40ml各乾粒1kg当たり)、無人ヘリ防除:8月24日、  
出穂:8月14日、収穫:10月20日 ※新薬(ルーチンFS<いもち病>、キラップシードFS<イネミズゾウムシ>:鉄コー同時処理)

**● 収量成績について**

- ・収量(585kg/10a:※慣行比94.4%<品種:あきたこまち>、前年慣行比99.5%<品種:あきたこまち>)
- ・倒伏(倒伏度0~2 全体の5%) ※慣行比(移植栽培比較)

**● 実証結果の考察について**

・播種後、比較的好天に恵まれ出芽、苗立ち、活着も良好でしたが、6月は低温・寡照となり、分けつの発生が抑制された。8月14日の出穂後から9月上旬は、低温・寡照に経過し、登熟は緩慢に進みました。以上のことから、今年は穂数が少なかったものの登熟歩合が高く、千粒重が大きかったため、玄米重で目標収量の10a当たり570kg以上を確保し収量では585kgとなりました。また、倒伏や病害虫の発生、被害も殆どありませんでした。

※耕種概要等については実証結果であり、肥料・農薬の使用に当たっては使用基準を遵守すること。

**2. 秋田県における鉄コーティング湛水直播栽培のポイントについて**

- ① この方式の特徴は、種子コーティング作業が農閑期に実施でき、長期間保存(6ヶ月程度)できることです。
- ② カルパー方式に比べ、発芽が5~7日程度遅れることから、県北部は中央部以南に比べ平均気温が1~2℃も低く経過することを念頭におき、用水の温水対策など初期生育の確保が最優先課題です。播種後10日間の平均気温が14℃以上あることがポイントです。
- ③ この方式でも鳥害を受けるので、鳥害対策を講じ用水管理の徹底を図ってください。
- ④ 雑草対策は大きなポイントで、県病害虫・雑草防除基準を参考とし、特にSU抵抗性難防除雑草対策の薬剤選定についてはJAや県の指導機関に相談してください。\*SU剤(スルホニルウレア系除草剤)
- ⑤ 有効茎確保後の中干しや溝切りの励行、水管理の徹底を図ってください。

**3. 水稲直播栽培について**

- ① 圃場が均平になっていない場合は出芽、苗立ち、初期生育、除草剤効果に大きく影響するので均平を図ってください。
- ② 分けつが進む4葉期頃の水管理が重要で、この頃の深水管理は、圃場の強還元下での表層剥離、藻の発生が同時進行し、地上部・地下部の生育抑制、分けつの発生がとまりますので、対策としてこの頃3~5日の落水管理をしてください。
- ③ 導入品種については、県の奨励品種で倒伏に強い品種が基本となります。近年は直播品種の開発が進んできておりますが、導入に当たってはJA等にご相談のうえ用途や販売先によって判断してください。

お問い合わせは、営農支援部 営農支援課(加藤) 018-864-2461 へ



JA全農あきた 営農支援部 TEL018-864-2462  
営農支援課